

奈良市自治連合会だより

第32号

発行 「奈良市自治連合会
だより」編集委員
発行部数 15,000部

鈴木副市長に聴く —地域の皆さんとの出会いが宝物—



令和4年9月に任期満了で退任された西谷忠雄前副市長の後任として同年10月に
就任された鈴木千恵美新副市長にお話を伺いました。

副市長の奈良市での役割(担当)について

危機管理、総務、観光経済、都市整備、建設部や、企業局、教育委員会などに関することを所管しています。

副市長となってこれまで市職員として担当したことのない分野も所管することになりましたが、役所はどこかでつながっているものなので、例えば子ども未来部に在籍していた時は公園緑地課とも関わりがありました。教育委員会では地域教育協議会に関わり、地域の皆様との出会いは宝物になっています。

副市長という立場になり、新鮮な気持ちで、初心に帰って住民の皆様の声を丁寧に聴きながら務めていきたいと思っています。

各種団体との協働や、地域自治協議会の推進について

地域自治協議会の「自治」は、自分たちで自分たちのまちをどうしたいか、というコンセプトをしっかりと



鈴木副市長にお話を伺う作間会長(中央)と長谷川編集委員長

持ち、主体的に課題解決に取り組むことだと思います。そのコンセプトが明瞭になれば、他の団体ともうまく連携していけるのではないのでしょうか。市としても、他市の成功事例などを参考に、どうすれば機能的になるかということをもっと研究していきたいと思っています。

仕事と家庭の優先順位や両立について

職員には家庭と自分のことを大切にしてほしいと話しています。公務員である以上、市民の命と財産を守ることが使命であり、災害などの緊急時には、何をおいても駆けつけなければならない場面もありますが、平時はワークライフバランスを取りながら、定時に帰れるように仕事に取り組んでほしいと思っています。

女性の社会進出について

今は、消防局や建設部、都市整備部など、以前は女性が少なかったところにも女性職員が増えています。男性だから女性だからといった性別役割分担を期待しての仕事の割り振りではなく、その方の個性や能力が評価されるべきだと思います。

仕事と家庭の両立が難しいという理由で昇任試験を受けない女性職員も多いのですが、長時間労働が前提になっています。男性職員も早く帰って家庭のことに携わっていただき、男性も女性も関係なく働きやすく活躍できる職場づくりを進めていきたいと思っています。

多世代による取り組みで持続可能な自治会活動を 市民部 部長 谷田 健次

日頃より自治会会員の皆様におかれましては、地域活動にご尽力いただき感謝申し上げます。

市民部では、自治会等地域活動の推進のほか、ボランティア・NPO活動の推進、戸籍・住民票の届出やマイナンバーカード、昨年4月にオープンした「奈良市斎苑 旅立ちの杜」、文化やスポーツの振興、共生社会の推進など、市民の皆様と直結する業務を所管しております。

自治会活動につきましては、全国的に加入率低下や担い手不足などが課題になっておりますが、本市も例外ではなく、皆様の自治会でもその対策にご苦労いただいていることと存じます。自治会は地域コミュニティの基盤となる重要な組織であり、その活動を持続可能なものとする事は、市と奈良市自治連合会とが力を合わせ共に取り組むべき重要な課題です。

昨今、地域に無関心な人が増えているとも言われていますが、一方で地域活動への参加意思がある方も一定程度い

らっしゃることがわかる調査結果があります。昨年度に本市が実施した市民意識調査における地域活動への参加状況に関する設問では、「参加している」が15.5%に対し、「参加したいと思わない」が34.2%、「参加してみたいができていない」が29.7%でした。参加していない理由で一番多かったのは「仕事で都合がつかない」で24.7%でした。例えば共働きの世帯では、仕事と子育てをしながら地域活動に参加するのは難しいかもしれませんが、子どもと一緒にできる活動なら参加もしやすいのではないかと思います。

地域コミュニティが希薄になってきている中でも、住民の皆様が安全・安心で住みよいいきいきとした暮らしを送る上で、自治会の役割はとて大きなものです。それぞれの自治会におかれましては、小さな子どもや学生、現役世代、高齢者、一人暮らしの人もそうでない人も幅広い方が地域活動に参加できるよう、それぞれの世代や世帯の状況に焦点を当ていただき、これからの自治会活動のあり方をぜひ模索していただければ幸いです。市としましても、奈良市自治連合会とタッグを組みながら、しっかりと自治会活動をサポートしてまいりたいと考えております。

地域の課題解決に向けた取り組み

令和4年9月に地区自治連合会を対象に地域の課題解決に向けた取り組み調査を実施いたしました。取り組みの一部を紹介させていただきますので、地域での活動の活発化に是非ご活用ください。ものまねから新たな発想・活動を産むのはみなさんです。まずはやってみませんか。

自治会加入促進のための取り組み

① 自治会活動に興味を持ち、加入したいと思える各種イベントの開催

② 加入促進チラシ（自治会組織の説明、会費の有効活用など）の配布

③ 加入促進のためのホームページ作成

④ 住宅建設時の入居者に対する自治会加入・結成の呼びかけ

分譲物件は購入者との契約時の「重要事項説明書」に地域社会との付き合いを明示
賃貸物件はオーナーに必要性を訴え、一括加入を求め会費の支払を求める

⑤ 未加入の既存戸建て住宅は、自治会から勧奨する（納得感のある差別化も必要かも?）

役員のなり手不足解消への取り組み

① 新しい人材発掘のためのイベントを実施

子どもたちの、子どもたちによる、子どもたちのための面白イベントの開催

子ども対象イベントの実施で
保護者も参加⇒面白さを知り
新たな人材発見！



② 女性役員の増加
（会議開催日時の検討・子どもと共に参加できる環境の整備）



③ 役員選出方法の改革・改定

④ 会議も含めた事業の見直し

⑤ 自治会・組・班などの統廃合を含む再編

奈良市自治連合会としての重点課題

奈良市自治連合会 会長 作間 泉

見えてきた課題

・自治会加入率の減少、自治連合会加入自治会減少
高齢化に伴い長年役員を担ってくださった方が退会される事例が多くなってきています。また、コロナ禍で自治会活動の実施ができず、自治会への関心度が低下してきています。自治会に入らなくても困らない若者が増加し、自治会活動への参加も減少しています。

・役員のなり手不足が深刻な状況

“役員になるなら自治会をやめる”といった声をよく聞きます。行政だけでは対応しきれず、地域の負担は年々増加しており、それが役員の仕事増につながって役員のなり手不足が深刻な状況になっています。

また、若者を取り込むための手段が見えず、自治会活動はどんどん衰退化しています。

課題に対する奈良市自治連合会としての取り組み

① 奈良市自治連合会定例会において地域課題を協議する時間を定期的に設け、少しでも前進できる取り組みを見出す努力をします。（地域課題検討部会を立ち上げるのも可）“なぜ?・どうすれば?・まずやってみる”を繰り返し課題解決に向けた取り組みを粘り強く継続する必要があると考えます。地区自治連合会・単位自治会に至るまで情報を共有し、オール奈良で協議し団結して、この大きな課題に取り組んでいきたいと考えます。

② 行政に対し、協働・地域への参画を求め、官民一体となってこの問題に正面から向き合っていかなければならないと考えます。「自治会加入促進条例の制定などで行政から、不動産業者、建設業者、地権者、管理者等に啓発していただき、入居者、購入者等に周知する。」「自治会加入促進チラシ（自治会単位）の充実をはかり、加入が円滑に進むような仕組み作りを検討する。」「魅力ある自治会になるような行事等を検討する。」など。

コミュニティ活性化のための取り組み

① 各種イベント開催、地域内各団体の協働

- *小・中・高・大学とのコラボイベント
- *〇〇ふれあいフェスタ
- *〇〇中学・〇〇高校文化祭での企画参加実行
- *地元NPO・企業参加イベント
(企業にとっても認知度アップのチャンス)
- *各種イベントでのブース参画
(例えば朝市でのコーナー参加も)

地域交流イベント

<紹介された各地区実施のイベント>

- ◎子どもと家族のための防災訓練
- ◎子どもの家親子スタンプラリー
- ◎グランドゴルフ (子どもに指導の所も)
- ◎ふれあいサロン (各種講座も)
- ◎餅つき大会 (新年互礼会を兼ねる)
- ◎夏休み子どもまつり
- ◎おやじ居酒屋
- ◎地域・河川清掃
- ◎青空市・朝市
- ◎一人暮らし訪問
- ◎子ども食堂支援
- ◎ゲートボール
- ◎健康体操

② ホームページを利用しての情報の提供



ふれあい居酒屋 (朱雀地区)



イベントの案内 (済美南地区)

イベント開催時の案内チラシの各家庭への配布、ポスター作成掲示は効果大!



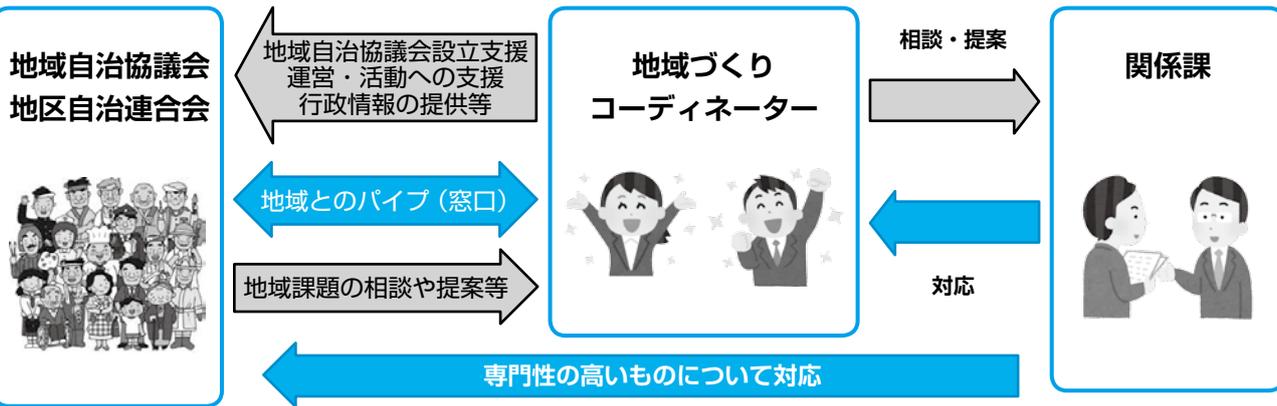
ちびっこ夏祭り (済美南地区)

③ あいさつ運動・ながら見守り推進で顔見知りの方の拡大、繋がり強化



地域づくりコーディネーターの役割

市役所には地域活動を支援する職員として地域づくりコーディネーターが配置されています。地域づくりコーディネーターは、地域が自立して活性化や課題解決のために活動できるようにコーディネートし、また、地域単独では課題解決が困難な場合には、行政の窓口として相談を受け、関係課とのパイプ役となり課題解決に向けた支援を行います。



わがまち自慢

— 地域紹介 —

未来に繋げる地域づくり

済美地区自治連合会

済美地区は奈良市中部の旧市街に位置し、「ならまち」が一部含まれます。

南にはJR万葉まほろば線の京終駅があります。京終駅は難読駅の1つですが、京終の地は奈良時代の平城京の外京南端に位置していたところから京の端の意味と伝えられています。

ならまちは、もとは商家だった家屋なども多く、住民の高齢化や空き家対策などが地域の課題です。

地区内人口は約12,500人、世帯数は約6,900世帯で、古い町並みが残る地域だけに、夏祭りや地藏盆などを通して住民同士の交流は盛んです。

〈ごりょうさんの秋祭り〉

済美地区の氏神様の御霊神社は、西暦800年に創建されたといわれ、氏子の範囲は75町、約3,000軒を有し、地元では「ごりょうさん」と呼ばれて親しまれています。

例大祭は毎年10月13日で、今年も神輿や獅子

舞・稚児が域内を練り歩く「お渡り」が秋晴れの中行われました。今年は済美小学校にも入り、昼休みの運動場を1周し、子どもたちから大歓声で迎えられました。

前日の宵宮祭では神事のあと、空くじなしの福引抽選会や縁日が催され大賑わいでした。

〈ふれあい朝市の開催〉

済美地区では毎月の最終日曜日に「ふれあい朝市」を開催しています。3年目に入りましたが、今では出店者も10店舗以上に増えてきています。そのほとんどが済美地区内にお住まいの方々です。野菜や食品だけは他所から応援を得ていますが、基本地元密着型での開催です。

地域自治協議会メンバーで運営に当たっていますが、生涯学習センターや春日公民館からの応援も得ながら、綿菓子や珈琲などの直営もしています。



ふれあい朝市のようす

子ども参加イベントで自治会の活性化を！

学園三碓地区自治連合会



学園三碓地区は令和4年4月1日現在、全体で6,009世帯、人口は14,433人です。

奈良時代に聖武天皇が三つの碓(からうす)で米を搗くのをみてこの地区を三碓(みつがらす)と名付けたとされています。自治連合会は、学園大和(だいわ)町内の6自治会で構成され1,400世帯余りが加入しています。この地区を宅地造成したのが大和団地で、学園大和町の町名の由来になっています。昭和40年から住民が住み始めました。

活動の拠点は町のほぼ中央にある西部公民館学園大和分館です。大中二つの会議室と二つの講座室や和室があり、各自治会の会議、社会福祉協議会の活動、20前後のサークル活動などに利用されていま

す。サークルは卓球、体操、健康麻雀、人形劇、絵手紙、合唱など多岐にわたります。

最近の連合会の活動としては、令和4年10月にハロウィン(秋祭り)を催しました。従来大和町青年団が中心になって行っていた夏祭りがコロナ禍で中断していましたが秋祭りとして開催方向と知り、一緒にやろうとお願いして、青年団、地元商店街と初めて三者共催の形で開催しました。連合会は子どもじゃんけん当て物を出店し約300人のお子さんが参加してくれました。11月には小学生対象のドローン操縦体験会を行いました。22人の小学生が操縦を体験、お子さんの後に一部の保護者の皆さんにも体験してもらい楽しいひと時を過ごしました。自治会活動の活性化の意味でこうしたイベントが大切だと再認識しました。



ハロウィン(秋祭り)のようす

編集後記

新型コロナウイルスも3年目を迎え、今なお終息が見えません。そのような状況下において、各地区自治連合会では自治会員の高齢化に伴う担い手不足など様々な問題を抱えながらも、より良い方向への模索が続く様子が見えてきました。今後も住民の代弁者として市民目線から行政とのパイプ役として頑張っていきたいと思います。(編集委員)